産業界等と連携した学びの実践事例

学校名	岡山県立　興陽　高等学校
実践場面	岡山後楽園での「協同作庭」
実践日時（時期）	令和６年４月 19 日（金）
対象生徒（学年）	造園デザイン科３年生
連携の形態	□包括連携協定（　　） ■その他（　日本造園組合連合会岡山県支部と興陽高校の「連携・協力に関する包括協定」に基づき実施　）
学びの分類	□講演会講師・説明会　■技術指導　□企業訪問・ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ □商品開発・共同研究　□最新技術・設備の見学　□その他

実践の内容

【現状】

・造園業界では若手の担い手不足や職人の高齢化といった問題があり、石積みや竹垣といった技術を継承する実地の場が減りつつある。

・興陽高校は県内で唯一の「造園」を学べる県立高校であり、令和５年 12 月に「岡山県造園緑地組合連合会」「日本造園組合連合会岡山県支部」と「連携・協定に関する包括協定書」を交わし、相互の情報・ノウハウを有効に活用することで、造園業界の振興と若手人材の育成を進めている。

【実践内容】

・日本造園組合連合会岡山県支部の青年部が、伝統的なものづくりの良さを広くアピールするなどの狙いから、高校生との「協同作庭」を企画した。

・造園デザイン科３年生 10 名が青年部のメンバーらの指導を受けながら、石を置いたり垣根を整えたりして、３メートル×４メートルの庭園を二つ、岡山後楽園の正門前に造った。（庭園は５月６日まで展示された。）

・参加した生徒からは「細かい部分や注意事項をプロの方に教えてもらい参考になった。造園の感性など学べることはしっかり学んで将来どうするかを決めていきたい。」という感想があった。

実践による効果等

・学校だけでは学べない伝統的な技術をプロの方から習得することができ、造園に対する興味・関心を高めることができた。

・生徒は、今後も岡山県造園緑地組合連合会と日本造園組合連合会岡山県支部の方から造園技能検定や若年者ものづくり競技大会などの技術指導を受けていく。

※実践の様子が分かる写真等を適宜入れてください。（肖像権の確認等（特に企業側）は各校で行った上で提出してください。）